

# 小田原なぎさ会



運営施設：小田原なぎさ作業所

## 活動の基本理念

# 人と人のつながりを大切に

私たちは  
『色々な障害を持つみなさん  
の自立を支援する活動』  
に取り組んでいます

### 私達の活動とSDGs

SDGsとは、2015年の国連総会で採択された目標。「Sustainable Development Goals」の略称で、日本語では「持続可能な開発目標」。

2030年までの達成を共通目標として、17の目標項目から構成されている。この目標達成により、2030年以降も“持続可能な社会”の実現継続を目指す。

障害者の自立支援活動（①施設設置・運営事業、②普及・啓発事業、③連携事業）を通して、私たちは『SDGsに深くつながる取組み』を推進しています!!!



\* 寄附用途：通所している障害者の各種支援活動など、主に日々の施設運営に活用させていただきます。

\* 寄附方法：指定口座へお振込みでお願い致します。詳細は、下記問合せ先へご連絡・ご確認願います。

\* 問合せ先：神奈川県小田原市南鴨宮 3-16-20 Tel・Fax：0465-47-4513 E-mail：o-nagisa@nifty.com

下記活動を通して、SDGs 推進中!!!

1) 障害者の自立支援活動

～施設設置・運営、普及・啓発、連携 の各事業で『共存共生社会』へ～

- ①施設設置・運営：「小田原なぎさ作業所」を運営。障害を持つみなさんが集団活動を通して、自立への道を目指す支援。
- ②普及・啓発：『取巻く社会も当事者もお互いに歩み寄り、理解を深める努力を積み重ねる中から、共に生きる社会の実現』を目指す活動。この精神は、障害/人種/民族/宗教/性別/貧困格差など様々な差別や不平等の解消にも相通じる活動の原点。
- ③連携：志を共に、色々な活動団体や自治体などが、協力・協働することで最大の成果を生み出す。



2) エコキャップ活動

～ペットボトルのキャップ回収による『自然保護』と『ワクチン支援』～

「私たちが誰かを支援できる!!」を合言葉に、作業所利用メンバーが自主活動として2015年から取組を開始。キャップは回収企業へ引渡し、再生されて新たな資源に生まれ変わる（自然保護活動）。この活動で得たお金は、各種企業・団体を経由してワクチンに変わり、世界中の必要とする方々へ接種（支援活動）。2023年現時点で、ポリオワクチン換算2700名分を達成!!!



3) エコマグネット

～コロナ禍の中で生まれた『アップサイクル(Upcycle)製品』～

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、作業所の受託作業が激減した2020年夏。



この打破に向け創出した自主製品『エコマグネット』。エコキャップ活動で集めたキャップの一部を活用したマグネット、“アップサイクル(Upcycle)製品”。

使用済みから、新たな価値ある製品へ!



まさに、SDGs 実践の製品!!!

